



2000年11月17日(日)「第13回関東シルクロード」を行いました。今回のコースは、甲府駅から下部温泉までの約42キロ。スタート・ゴール地点ともに、今までと比べて遠いためか、参加者はたったの4名、過去最低でした。

海宝道義さんは、来年10回目の「さくら道」完走を目指してトレーニング中とあって、体調は良いようです。ところが、町田は、前日病院から退院したばかり。10月下旬から気管支の調子が思わしくなく、夜中に咳き込んで眠れない日が続いていました。そして遂に11月11日(月)深夜、呼吸困難で救急車で病院に運ばれ入院。7～10日の入院と言われ愕然とします。「関東シルクロード」は...? そんなわけで、いつものようにマウンテンバイクではなく、車で伴走することにしました。約5キロ毎に休憩ポイントを設定して参加者を待ちます。初めのころは、予定通りみなさん到着していたのですが、だんだん乱れてきます。どうやら海宝さんが予定のコース通り走っていない様子。当然、下部温泉への到着が遅れていきます。温泉に入ってから、遅くとも下部温泉駅18時の電車に乗らないと。そんなこともあり、1人リタイア(これは早々)、2人目リタイア、下部温泉へ車で移動します。残る3人も最後は車で下部温泉へ。

帰りは、みんなで車で帰ることになりました。後部座席に4名、山道を曲がる時に呻き声が...。しかし、温泉から約2時間30分で橋本に到着。電車より速い! というわけで、少ない参加者と町田の病気のおかげ(?)で、ユニークな「関東シルクロード」となりました。



少ない参加者

今回のコースは、甲府駅から下部温泉までの約 42 キロです。最初に申し込んできたのは、浅野美智子さんでした（9 月上旬）。浅野さんは、昨年春の「関東シルクロード 甲州街道」に参加しています。次に届いたのは、高瀬章さんから。でも、これは、“とても参加したいのですが、残念ながら今回は参加できません” という内容のお手紙と通信費として 1000 円が同封されていました。その後音沙汰がなく、11 月上旬、石井純子さん、沢田初美さん、篠塚三樹雄さんの申込みがありました。石井さんは、昨年秋の「関東シルクロード 旧甲州街道」と今年春の「関東シルクロード 江ノ島から箱根湯本」に参加、沢田さんは「旧甲州街道」、篠塚さんは「甲州街道」「旧甲州街道」「江ノ島から箱根湯本」に参加しています。みんなギリギリで申し込んでくるのかと期待したりしましたが、この後申し込みはなく、当日の飛び込み参加を残すのみとなりました。

直前に入院！

「実は、今週の月曜日入院してしまいまして、日曜日までに退院できるかどうかわからないのです」と、海宝さんに病院から電話をしながら、参加者も少ないことだし、思い切って今回は中止にしようかとも考えます。「問題は、当日、申し込みをして参加する方がいるかもしれないですよねぇ」「やるだけやりましょう。町田さんが来れなくても。私も那覇マラソンの丁度よい練習になると思っていましたから」病名は“気管支喘息” 11 月 11 日（月）夜中にひどく咳き込み呼吸困難となり、救急車を呼びそのまま入院。点滴で発作は治まり、その後は規則正しい入院生活と投薬で順調に回復し、11 月 16 日（土）退院できました。これで、「関東シルクロード」に行ける。ただ、いつものようにマウンテンバイクで走ることは危険と判断し、初めて車で伴走することにしました。マウンテンバイクのようにこまわりはきかないけれど、一緒に行くことができただけでも良かった。でも、これが不幸中の幸いとなるのです。

不安と寂しさ

11 月 17 日（日）、甲府駅南口。高尾発 8 時の普通列車が到着する 9 時 39 分が過ぎ、海宝さん、篠塚さん、石井さんが現れました。しかし、浅野さんの姿がありません。次の列車の到着時刻 10 時過ぎまで待ちます。浅野さんが現れま



す。横浜駅から特急「はまかいじ」での到着です。心配したという期待した飛び込み参加は無く、参加者は 4 名と過去最低ですが、これも幸いです。早速不要な荷物を車に積み、駅左手にある武田信玄公の像の前で記念撮影をして 10 時 15 分にスタートしました。

下見はしたものの車の伴走ということは全く考えていませんでしたから、どこで待ち合わせるかは、行き当たりばったり。一応の目安として、“約 5 キロ先”、“左側のコンビニ”ということにしました。ランナーは 5 名ですから、多少のペースの差があっても、5 キロ毎に集まれば、待っても 5 分ほどですから問題はないだろう…。

先にスタートしたランナーを車で追いかけて、アッという間に追い越し、約 4 キロ先の左側にみつけたセブンイレブンで待ちます。待つ時間が長く感じられます。いつもなら、マウンテンバイクで先頭ランナーの先を走ったり、最後尾についたり、参加者の方と話しながら走ったりしながら全体の雰囲気がわかるのですが、今回は、何も見えない不安と寂しさを感じます。“遅いなあ、早く来ないかなあ”なんて。10 時 40 分、ようやく海宝さんと篠塚さんの姿を発見。その後に石井さんと沢田さん、さらに浅野さんが走っています。セブンイレブンで給水とトイレ休憩。

再び走り出すランナーを見送り、同じように追い越し、次





の休憩ポイントを探しながら車を走らせます。JR身延線をくぐり、国道20号線もくぐってしばらくすると、右側に土手が迫って来ます。昇仙峡から流れて来た荒川の土手です。荒川は、笛吹川と合流し、笛吹川は釜無川と合流して富士川となって静岡へ流れて行

きます。海宝さんのことですから、きっと土手を走って来るに違いありません。中央高速の下に車を止めて、土手に上がって待つことにしました。

予想通り、海宝さんと篠塚さんが並んで走って来ました。すぐに、石井さんと沢田さん、そして浅野さんと続きます。中央高速の下で給水します。



豪華な昼食

次のポイントは、「道の駅とよみ」です。国道140号線とぶつかったら右折し、3.5キロほどの左側にあります。ここで眼に入っただのは「シルクの里」という看板。

“「シルクの里」の愛称をもつ豊富村。夏場の雨量が少ない傾斜地にあるため、稲作の代わりに、養蚕が主産



業として営まれていた。以前はクワ畑が広がっていた場所に、今は「シルクの里公園」が整備されている。”ということです。

最初に到着したのは海宝さん、続いて篠塚さん、石井さんと沢田さん、5分遅れで浅野さんでした。時刻は、11時50分、予定通り、ここの食堂で昼食を摂ることにします。その前に、道の駅で買い物。みなさん、野菜などを買い込んでいます。町田は内心“そんなに買って帰る時重くないのかなあ”と思いましたが、海宝さん(はじめみなさん?)は、その時すでに帰りは車があると…。そんな雰囲気を感じな

がらも“ひとりあぶれるんだけど…”買ったお土産をトランクに入れて、食堂へ。関東シルクロード始まって以来の豪華な(?)昼食です。お腹いっぱい食べて、たっぷり1時間休憩して出発!



糸が切れた罫

道の駅から5キロほどのデイリーに車を止めて待ちます。途中まで笛吹川の土手がすぐ右にあります、やがて、国道から離れて行きます。これは危険!少し離れた土手のほうへ歩き、土手の上の人影に注意することに。やっぱり上を走ってる!みんなを呼び止め軌道修正します。デイリーで少し休んで13時30分スタート。「このまま素直に橋を



渡って国道52号線を走って下さい」

4キロ先の富士川大橋の手前で待ちます。ところが50分以上待っても現れません。“おかしいなあ?”携帯電話で連絡をとります。「今どこですか?」市川大門の駅を越えて、右にセブンイレブンがあつて…。国道52号線に向かっていきます」「...?市川大門の駅?...、じゃあ、そのまま国道52号線に入って下さい」

市川大門駅へ戻り、そこから彼らが走ったと思われる道をたどります。鯉沢口駅を越えると“国道52号線”の標識に従い右折して、富士橋手前で発見!そして、休憩。デイリーで別れて70分。ちょっと不安な寄り道となったようですが、地図で現在地を確認し、遠回りすることなく、目的地に近づいていることがわかり、ホッとします。浅野さんはここで、車の助手席へ。





あとどのくらい？

富士川を富士橋で渡り、国道52号線を左折します。約4キロ先の右側に車を止めることができる場所をみつけ、待ちます。

ちょうど雨畑硯の老舗があり、習字が趣味の浅野さんは店の中へ。本物と出会えた喜びで興奮気味に出て来ました。私たちが向かう下部温泉は国道から左折しますが、そこを右折して20キロほどの早川町雨畑は硯石の名産地なのです。

15時ちょっと過ぎ海宝さん先頭に篠塚さんと石井さん、沢田さんと到着。「あと10キロちょっとでしょう？」「15キロくらいはあると思いますが」そろそろ

疲れが感じられます。現在地を地図で示し、「次はこのデیلیーで待ってます」

地図にあったデیلیーは、実際にはありませんでした。地図上のデیلیーの付近で待つこと50分、誰も来ません。不安になって車で探しに戻ります。1.5キロくらい戻ると、まとまって走っていました。みんなでデیلیーを探していたようです。時刻は16時をまわったところ、温泉に入って、18時の電車に乗るというのはきわどくなってきています。次は、下部温泉方面へ左折する手前のデیلیー（これは確実に存在することがわかっていました）で落ち合うことにしました。



目的（地？）は下部温泉！

しかし、デیلیーより手前にローソンがあったのでそこに車を止めます。薄暗くなり、気温も下がってきて、月が出てきました。みんなが着いたのは、16時40分。時間通りたどり着けるか不安になります。しかも、そこにあった案内板によれば、“1.5km先左折7km”となっていました。これには、みんなショックを受けたようです。無理かも？



みんなで完走することよりも、みんなで目的地に存在することが大事。さらに、予定通り“下部温泉に入る”ことが目的（？）決断！みんなでキセル！まず、車で、浅野さんと沢田さんを温泉に送り、温泉に向かって走る海宝さん、篠塚さん、石井さんを車で迎えに行く！

下見で決めていた温泉は、宿泊客で満室のため立ち寄り湯を断られてしまいました。そこで紹介された、駅前の

「下部温泉ホテル」は入浴可能。2人を降ろし3人を迎えに行きます。そしてみんな無事温泉へ。さっぱりして出てきたのは、17時50分。電車には間に合いますが、なんとなく車モード。

運転は、町田。助手席に海宝さん。後部座席に残り4人。ルートは本栖道から道志道ですから、後部座席はもう大変、うっかり寝たら内臓破裂で命は無いんじゃないか？カーブでは笑い声とともに呻き声が。車にゆられて無事帰りました。





海宝 道義	228-0003	神奈川県座間市ひばりが丘 2-761-88 046-255-4689
町田 行弘	229-1103	神奈川県相模原市橋本 5-29-12-201 042-773-7415
篠塚 三樹雄	180-0001	東京都武蔵野市吉祥寺北町 4-13-17-201 0422-54-6850
浅野 美智子	236-0051	神奈川県横浜市金沢区富岡東6-30-1-304 045-774-0231
石井 純子	206-0823	東京都稲城市平尾 1-52-22 042-331-5570
沢田 初美	240-0006	神奈川県横浜市保土ヶ谷区星川 3-2-7-501 045-332-1303

